

2024年8月5日

報道関係者各位

みんぱく創設50周年記念特別展

「吟遊詩人の世界」

 A Special Exhibition for the 50th Anniversary of the Museum's Founding:
"THE WORLD OF POET-SINGERS"

2024年9月19日(木) ~ 12月10日(火)



展示概要

各地を広範に移動し、^{しいか}詩歌を歌い語る「吟遊詩人」は古くから存在しました。吟遊詩人というと、中世ヨーロッパにおいて存在した宮廷楽師や大道芸人を指すことが多いのですが、アジアやアフリカにおいても脈々と生きてきました。王侯貴族の^{けいふ}系譜の語り部、戦場で兵士を^{こぶ}鼓舞する楽師、権力者を^{やぶ}揶揄する批評家、道化師、庶民の代弁者、ニュースを伝えるメディア、^{かどづ}門付け芸人。吟遊詩人は、ときには畏怖の対象とされ、ときには社会の^{ゆかり}縁に追いやられてきました。

近年は、ポピュラー音楽界や消費社会、文化遺産保護運動とのつながりのなかで、芸能の様式や自身のイメージを変え生き延びてきました。本展では、吟遊詩人のパフォーマンスやそれらを成り立たせる物質文化を紹介するとともに、彼ら、彼女たちをはぐくんできた地域の人びとの息吹を伝えます。

本展の見どころ

1. アジア・アフリカの吟遊詩人の世界

特別展示館1階では8名の研究者・フィールドワーカーが、アジア、アフリカの吟遊詩人の世界を紹介します。エチオピア高原の吟遊詩人、タール沙漠の芸能世界、ベンガルの吟遊詩人と絵語りなど、これらの吟遊詩人を育む地域社会に身を置き、長い年月をかけてフィールドワークを行ってきた研究者たちが特別展の展示構成に関わっています。研究者の着眼点やスタイルが展示に反映され、それぞれの個性がいかに発揮されています。



アズマリ(エチオピアの吟遊詩人)が酒場で即興詩を復唱する様子

2. 特別展示場がライブハウスに!?

特別展示館1階のフロア中央にはアリーナスペースを設けます。ここでは、^{ゴゼ}警女、ラッパー、グリオ等をはじめ様々な吟遊詩人のパフォーマンスが行われます。さらに、地域やパフォーマンスの様式を超越した、吟遊詩人同士によるジャムセッションも企画されています。そのほか、みんぱく映画会、みんぱくゼミナール、みんぱくウィークエンド・サロンをとおして、研究者が吟遊詩人の世界を伝えます。



グリオ(西アフリカの吟遊詩人)の歌手ニヤマ・カンテ氏(ギニア)

3. あなたも吟遊詩人

特別展示館2階の「^{いん}韻と^{よくよう}抑揚、イメージの^{しんげん}深淵」セクションの一部に、来場者がカードあそびをとおして、日本語の韻の初歩を理解したり、詩作に取り組んだりできる体験スペースを設けます。監修者(本展に関わる研究者、吟遊詩人)の目にとまれば「今週の一歌」として選ばれソーシャルメディアをとおして紹介されます。

4. 研究者のまなざし

研究者・フィールドワーカーは対象の人びとを観察する側であると同時に、それらの人びとから観察される側でもあります。研究者はどのようなアプローチで吟遊詩人の世界とつながり、対象をまなざし、また逆にまなざしを投げかけられてきたのかを、写真、動画、イラスト等をおして省察的に示します。

資料点数 約 480 点

展示構成

■ 1階

8つのフィールドの吟遊詩人の諸相と地域社会を紹介します。

- ・ **エチオピア高原の吟遊詩人**
担当教員／川瀬慈（国立民族学博物館 教授）
- ・ **タール沙漠の芸能世界（インド）**
担当教員／小西公大（東京学芸大学 准教授）
- ・ **ベンガルの吟遊行者と絵語り（インド、バングラデシュ）**
担当教員／岡田恵美（国立民族学博物館 准教授）
- ・ **ネパールの旅する楽師**
担当教員／南真木人（国立民族学博物館 教授）
- ・ **瞽女——見えない世界からのメッセージ（日本）**
担当教員／広瀬浩二郎（国立民族学博物館 教授）
- ・ **うたが生まれる心の小道（日本）**
担当教員／矢野原佑史（京都大学 特任研究員）
- ・ **モンゴル高原、韻踏む詩人たちの系譜**
担当教員／島村一平（国立民族学博物館 教授）
- ・ **マリ帝国の歴史を伝える語り部**
担当教員／鈴木裕之（国土館大学 教授）



都市のバウル（インドとバングラデシュの吟遊詩人）歌手



瞽女の門付け（日本）©新潟日報社

■ 2階

通文化的な視点、研究の舞台裏を紹介します。

- ・ **ポピュラー音楽と吟遊詩人**
- ・ **韻と抑揚、イメージの深淵**
- ・ **研究者のまなざし**



「擦弦楽器」サーランギ（ネパール）

関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんぱくホームページをご確認ください。

みんぱく映画会

「世界の感触を取り戻せ！——目の見えない者は、目に見えない物を知っている」

- 会 場** みんぱくインテリジェントホール(講堂)
- 日 時** 10月13日(日) 13:00～16:20 (12:30開場)
- 上映作品** 「瞽女GOZE」(2019年)
- 司 会** 広瀬浩二郎 (国立民族学博物館 教授)
- 演 奏** 萱森直子 (瞽女唄演奏者)
- 解 説** 斎藤弘美 (「瞽女ミュージアム高田」 顧問)
- 定 員** 350名
- 参加方法** 事前申込制(先着順) / 要展示観覧券(一般580円、特別展をご覧になる場合は一般880円) ※イベント参加費は不要
- 内 容** 盲目の師匠から弟子へと口伝えで語り継がれてきた^{こぜ}瞽女唄は、民衆に大きな喜びと慰めをもたらしました。近代化の流れの中で、瞽女の数は減少していきます。「最後の瞽女」と称される小林ハル(1900～2005)が亡くなったことにより、瞽女は日本社会から消滅し、現在はその存在を知る人も少なくなりました。しかし、「瞽女文化」から私たちが学ぶべきものは多いのです。本作は小林ハルの波乱の半生を描き、「障害」の有無に関係なく、生きることの普遍的な意味を問いかけます。



映画「瞽女GOZE」より

映像人類学フォーラム

「吟遊詩人をめぐる映像民族誌の視点——エチオピアとネパールの比較から」

会場 本館2階第7セミナー室
日時 10月26日(土) 13:00～17:00 (12:30開場)
上映作品 「アズマリ——声の饗宴」(2023年)
 「カトマンドゥのサーランギ奏者たち」(みんぱく映像民族誌第35集、2019年)
司会 川瀬慈 (国立民族学博物館 教授)
解説 川瀬慈、南真木人 (国立民族学博物館 教授)
定員 30名 (参加者全員で討論します)
参加方法 事前申込制 (先着順) / 参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)

上映作品 ■「アズマリ——声の饗宴」(2023年)
 エチオピアの都市にある吟遊詩人酒場アズマリベット。ここでは、弦楽器マシニコを弾き語る楽師アズマリが人生の無常や恋、政治問題についての伝承歌を歌い、庶民を楽しませます。アズマリのパフォーマンスの特色は歌い手のみならず、聴き手も即興的に詩を生み出し、歌い手に投げかけること。アズマリの歌は、エチオピアの政治や社会情勢、庶民の気持ちを映し出す鏡なのです。本作はアズマリの青年、ソロモン・アイヤノー氏の活動や家族とのつながりを基軸に、アズマリをめぐる音楽文化の継承や真正性をめぐる問題に迫ります。

■「カトマンドゥのサーランギ奏者たち」
 (みんぱく映像民族誌第35集、2019年)
 「ヒマラヤの吟遊詩人」と呼ばれてきたネパールの楽師ガンダルバは、擦弦楽器サーランギを弾いて歌い、村々を旅してきました。1970年代頃からは外国人ツアーリスト相手の商売に転換し、フュージョン・バンドで演奏する人も現れました。この映画では、ガンダルバの生活の変容とサーランギ音楽の現在を多くの奏者の演奏と語りから描いています。サーランギ音楽の魅力と新たな伝統の胎動を感じてください。



ゴンドールのアズマリの村
(川瀬慈撮影)



フュージョン・バンドで演奏する
サーランギ奏者 (南真木人撮影)

音楽ドキュメンタリー「The Path～パルバティ・バウル 風狂の歌ごえ」

- 会 場** みんなくインテリジェントホール(講堂)
- 日 時** 11月23日(土) 13:30～15:30 (13:00開場)
- 上映作品** 「The Path～パルバティ・バウル 風狂の歌ごえ」(2019年)
- 司 会** 岡田恵美 (国立民族学博物館 准教授)
- 解 説** 阿部櫻子 (ディレクター／プロデューサー)
- 定 員** 350名
- 参加方法** 事前申込制 (先着順) / 要展示観覧券 (一般580円、特別展
を
ご
覧
に
な
る
場
合
は
一
般
880円) ※イベント参加費は不要
- 内 容** 現在、世界各地で公演をおこなう女性バウルのパルバティ。バラモン階級出身の彼女は、吟遊行者バウルになる決意をして大学を退学し、入門した師匠のもとで歌や物乞いの修行を積みます。本作はパルバティがバウルになる以前から親交をもつ阿部櫻子が2018年の初来日公演を追った音楽ドキュメンタリー映画です。バウルの音楽とその修行や精神性がパルバティの語りや圧巻のパフォーマンスを通して紡がれていきます。



パルバティ・バウルと仲間のバウルによる歌の集まり

みんなくゼミナール

「ネパールの『吟遊詩人』——映像音響資料の当事者との共有」

- 会場** みんなくインテリジェントホール(講堂)
- 日時** 8月17日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)
- 講師** 南真木人 (国立民族学博物館 教授)
- 定員** 400名
- 参加方法** 事前申込制 (当日参加申込可) / 参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)
- 内容** みんなくが所蔵する過去の写真、映像、音源を当事者と共有する事業を進めています。特別展「吟遊詩人の世界」に先駆け、この事業の過程で明らかになった、ネパールの「吟遊詩人」ガンダルバについてお話しします。



ダン・バハードゥル・ガエク氏

「世界を異化する歌と語り——エチオピアの吟遊詩人」

- 会場** みんなくインテリジェントホール(講堂)
- 日時** 9月21日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)
- 講師** 川瀬慈 (国立民族学博物館 教授)
- 定員** 400名
- 参加方法** 事前申込制 (当日参加申込可) / 参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)
- 内容** エチオピアの地域社会で活動する吟遊詩人の歌は、近年エチオピアが経験した社会や政治の変動、及び庶民の心情を映し出す鏡です。これらの歌について私が撮影した映像とともに紹介します。



聴衆による即興詩を復唱する酒場の歌手

みんなくウィークエンド・サロン — 研究者と話そう

研究者が展示や研究についてお話しします。

ナビひろばでお話のみ聞かれる場合は、本館展示観覧券が必要です。

※印は、ウィークエンド・サロン終了後に、特別展示館内でパフォーマンスがあります。特別展示館へ入場される場合は、特別展示観覧券が必要となります。

「^{こぜ}瞽女の「サウンド・スケール」——音で知る、音に委ねる、音が生きる」

会場 本館展示場（ナビひろば）
日時 10月6日（日） 14:00～14:45
話者 広瀬浩二郎（国立民族学博物館 教授）
 月岡祐紀子（三味線奏者、民謡歌手、瞽女唄専門家）
定員 なし（ご自由に参加いただけます）
参加方法 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
内容 英語の「scale」には測定器具・鱗・音階という意味があります。瞽女たちの生活・芸能は“音”と密接な関係を持っていました。「サウンド・スケール」という新概念を用いて、瞽女の耳・体・心に迫ります。講演終了後、特別展示館にて月岡祐紀子さんの瞽女唄ライブあり！（※）



高田瞽女最後の親方・杉本キクイ（1898～1983年）（瞽女ミュージアム高田提供）

「ベンガルの遊行詩人フォキル・ラロン・シャハの宗教世界」

会場 本館展示場（ナビひろば）
日時 10月20日（日） 14:00～15:00
話者 外川昌彦（東京外国語大学 教授）
定員 なし（ご自由に参加いただけます）
参加方法 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
内容 南アジア・ベンガル地方の遊行詩人フォキル・ラロン・シャハ（1890年没）は、ヒンドゥー教徒の家に生まれ、ムスリム導師から民俗音楽バウルを学び、宗教の違いにとらわれない様々な歌を残しました。バウルの伝承は、後にユネスコの無形文化遺産に登録されています。



ラロン・シャハをお祀りする聖者廟（外川昌彦撮影、バングラデシュ・クシュティア市）

「モンゴル高原、韻踏む詩人たちの系譜」

会場 本館展示場（ナビひろば）
日時 10月27日（日） 14:00～15:00
話者 島村一平（国立民族学博物館 教授）
定員 なし（ご自由に参加いただけます）
参加方法 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
内容 移動生活をするモンゴルの遊牧民たちのあいだでは、物語は書くのではなく、韻を踏みながら口で歌い語るという方法が取られてきました。このサロンでは、現代へ続くモンゴルの韻踏み文化を概説します。講演終了後、特別展示館にてモンゴルのラッパー、KAのライブがあります！（※）



シャーマンに精霊が降りてきて物語を語る

「タール沙漠の芸能世界」

会場 本館展示場（ナビひろば）
 日時 11月3日（日） 14:00～14:45
 話者 小西公大（東京学芸大学 准教授）
 定員 なし（ご自由に参加いただけます）
 参加方法 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
 内容 インド北西部に広がる沙漠エリアには、さまざまな器楽演奏や歌唱、ダンスを生業とする芸能集団が存在します。本サロンでは沙漠の彩り豊かな芸能世界を概観し、グローバルな変化に対応し生き抜こうとする彼らの生存戦略に光を当てていきます。講演終了後、特別展示館にてNalikaさん、Madhuさんによるカールペーリヤードダンスのライブがあります！（※）



村で繰り広げられる芸能世界

「マリ帝国の歴史を伝える語り部の音楽世界」

会場 本館展示場（ナビひろば）
 日時 11月17日（日） 14:00～14:30
 話者 鈴木裕之（国士舘大学 教授）
 定員 なし（ご自由に参加いただけます）
 参加方法 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
 内容 西アフリカにはグリオと呼ばれる語り部がいて、13世紀に成立したマリ帝国の歴史を歌と語りで伝承しています。このグリオの芳醇な音楽世界を解説したあと、特別展示館において日本で活躍するグリオ、ニャマ・カンテ氏がギター伴奏およびDJ形式でグリオの歌を披露します。（※）



在日グリオ、ニャマ・カンテ氏が歌うようす

「ネパールの旅する楽師」

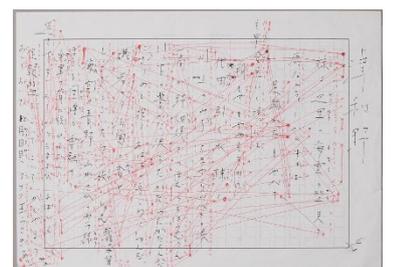
会場 本館展示場（ナビひろば）
 日時 11月24日（日） 14:00～14:30
 話者 南真木人（国立民族学博物館 教授）
 定員 なし（ご自由に参加いただけます）
 参加方法 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
 内容 「ヒマラヤの吟遊詩人」と呼ばれてきたネパールの楽師カーズト、ガンダルバ。彼らは村々を旅して歩き、擦弦楽器サーランギの弾き語りをしてきました。しかし1970年代以降、ツーリスト向けの商売に転換し、徐々に村まわりをやめました。生業の変容と音楽の継承について考えます。



村々を旅して歩いていたころのガンダルバ

「越境する韻律の世界」

会場 本館展示場（ナビひろば）
 日時 12月1日（日） 14:00～14:45
 話者 矢野原佑史（京都大学 特任研究員）
 志人（語り部、ラッパー）
 定員 なし（ご自由に参加いただけます）
 参加方法 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
 内容 本特別展でもスポットライトをあてている日本の語り部／ラッパー志人（しびっと）と、アフリカ音楽／口頭伝承の研究を進めてきた矢野原佑史が、韻律という人類の営為について語ります。講演後は、特別展示館にてパフォーマンスを行います。（※）



志人による「透韻図（とういんず）」

友の会講演会

「絵語りポトゥアの歌世界」

会場 本館2階第5セミナー室
日時 10月5日(土)13:30～15:00 (13:00開場)
講師 岡田恵美 (国立民族学博物館 准教授)
内容 インド・西ベンガル州の田園地帯にある、ノヤ村。そこには絵語りを生業としてきたポトゥアが250人ほど暮らしています。ポトゥアはイスラーム教徒でありながら、ヒンドゥー神話や地母神の物語を自らが描いた巻絵「ポト絵」を使って歌で紡ぎ、かつては近隣のヒンドゥー教徒の村々を巡りました。その時々々の社会問題もポト絵に取り入れ、巧みに生きてきたポトゥアの暮らしと歌世界を、映像を用いて紹介します。

定員 70名
参加方法 ① 会場参加 (第5セミナー室)
 ② オンライン (ライブ配信) 参加 ※会員限定
 ・会場、オンライン配信ともに事前申込制 (先着順)。
 ・友の会会員：無料、一般：500円。
 ※講演会終了後、特別展の見学会をおこないます。
 (要特別展示観覧券)

問い合わせ 国立民族学博物館友の会(公益財団法人 千里文化財団)
 電話 06-6877-8893



ノヤ村の女性たちによる絵語り
 (岡田恵美撮影)

「世界を席卷する RAP の魅力——あなたもわたしも吟遊詩人」

会場 本館2階第5セミナー室、特別展示館
日時 11月2日(土)13:30～15:00 (13:00開場)
講師 矢野原佑史 (京都大学 特任研究員)
内容 本講演では、まず現在日本でも流行中のラップ(RAP)について解説し、アフリカの口頭伝承や日本文化とのつながりにも着目し、その魅力をお伝えします。その後、特別展示館に移動し、「うたが生まれる心の小道」という展示の説明と、「あなたも吟遊詩人」という詩作体験コーナーでのワークショップをおこないます。

定員 40名
参加方法 ① 会場参加 (第5セミナー室、特別展示館)
 ② オンライン (ライブ配信) 参加 ※会員限定
 ・会場、オンライン配信ともに事前申込制 (先着順)。
 ・友の会会員：無料、一般：500円 (要特別展示観覧券)。
 ※講演時間内で講義と特別展の見学をおこないます。
 オンライン配信は講義の時間のみとなります。

問い合わせ 国立民族学博物館友の会(公益財団法人 千里文化財団)
 電話 06-6877-8893



カメルーンで楽曲制作するラッパーたち (矢野原佑史撮影)

開催概要

展覧会名	みんぱく創設50周年記念特別展「吟遊詩人の世界」
会場	国立民族学博物館 特別展示館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)
会期	2024年9月19日(木)～12月10日(火)
開館時間	10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	水曜日
観覧料	一般 880円(600円)、大学生 450円(250円)、高校生以下無料 ※本館展示もご覧いただけます。※入館当日はチケット半券で再入場できます。 ＊()内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方(一般料金)の割引料金(要証明書等)。 ＊障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。
主催	国立民族学博物館
協力	公益財団法人千里文化財団、国土館大学、警女ミュージアム高田、東京学芸大学、豊岡市立日本・モンゴル民族博物館
後援	一般社団法人エチオピア・アートクラブ

実行委員長 川瀬慈(かわせ いっし)

1977年生まれ。国立民族学博物館教授。映像人類学、アフリカ地域研究。エチオピアの世襲の音楽集団を対象とした民族誌映画制作を行うと同時に、詩、小説、パフォーマンス等、既存の学問の枠組みにとらわれない方法でフィールドワークの経験を伝える。著書に『ストリートの精霊たち』(世界思想社、2018年、鉄犬ヘテロトピア文学賞)、『エチオピア高原の吟遊詩人 うたに生きる者たち』(音楽之友社、2020年、サントリー学芸賞、梅棹忠夫・山と探検文学賞)、『叡智の鳥』(Tombac/インスクリプト、2021年)。『見晴らしのよい時間』(赤々舎、2024年)。客員教授としてハンブルグ大学(2013年)、ブレーメン大学(2014年、2016年)、山東大学(2016年)、アジスアベバ大学(2018年)等で教鞭をとる。2022年より毎日放送番組審議会委員。



実行委員

鈴木裕之(国土館大学 教授)

ニヤマ・カンテ(歌手)

小西公大(東京学芸大学 准教授)

岡田恵美(国立民族学博物館 准教授)

島村一平(国立民族学博物館 教授)

広瀬浩二郎(国立民族学博物館 教授)

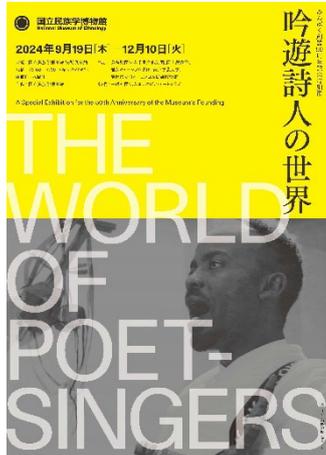
南真木人(国立民族学博物館 教授)

[お問い合わせ] 国立民族学博物館 総務課 広報係

Tel:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp

プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press

みんなく創設 50 周年記念特別展「吟遊詩人の世界」 広報用画像リスト



【1】特別展チラシ



【2】エチオピアの吟遊詩人アズマリ



【3】ラージャスターンの宗教画（インド）



【4】グリオの歌手ニャマ・カンテ氏（ギニア）



【5】ハルモニウム（インド）



【6】瞽女の門付け（日本）©新潟日報社



【7】語り部／トーチ (モンゴル)



【8】語り部／ラッパー志人 (しびっと) (日本)
photo by listude



【9】都市のパウル歌手 (バングラデシュ)



【10】「^{まつげんがっき}擦弦楽器」サーランギ (ネパール)

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課 広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

みんぱく創設 50 周年記念特別展「吟遊詩人の世界」

広報用画像 利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

 3組6枚 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

E-mail koho@minpaku.ac.jp または Fax 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

■ 写真使用に関するお願い、注意事項

・クレジットには次のとおり記載してください。

【6】©新潟日報社

【8】photo by listude

【2】～【5】、【7】、【9】、【10】 国立民族学博物館提供

・写真（画像）の過度なトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

■ 本館の基本情報等の確認のため、E-mail または Fax にて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。

■ お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

Tel : 06-6878-8560 (直通) Fax : 06-6875-0401 E-mail : koho@minpaku.ac.jp